

「ありもんさんと卵焼き」

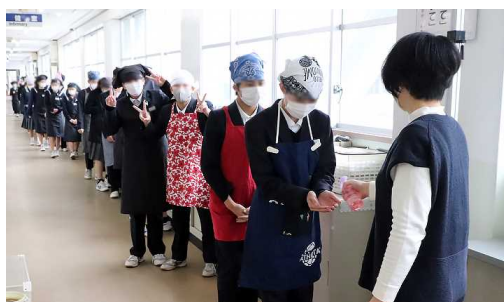
校長 江口 満



昨年の夏だったか、兄弟との食事会の時である。私が子どもの頃の話に盛り上がり、江口家の晩ご飯メニュー「ありもんさん」の話題になった。すると義理の姉が、「なにそれ。ありもんさんという料理知らない。」と言うではないか。「エー——！お姉さん、知らないのー？」と、私は叫んでしまった。

我が母の得意料理「ありもんさん」。冷蔵庫などに残った食材、あるものを総動員して作る料理のことだ。一つ一つの料理の量は少ないのだが、何が出てくるのか分からないので、みんなわくわくする。しかも定番のメニューと違って不思議と新鮮な美味しさがある。だから母から「今夜はありもんさんよ」と言われると、「ありもんさん！」「ありもんさん！」と、兄弟そろって台所をはしゃぎながら行進したものだ。「ありもんさん料理」のことをなつかしげに話していたら、家内が一言。「そうなん。我が家はいつもありもんさんよ」「うっ…」と言葉が詰まってしまうというお決まりのパターンで話が閉じられる。

ともあれ、わくわくしながら箸を進めると会話も弾む。家族のみんなと料理を食べ、今日一日の出来事を心ゆくまで語る。ちょっと心が落ち込んだとき、体を動かしたり散歩をしたりすると心がすっきりするよう



に、口が動けば心も動き、心が弾みホッとする。一週間に一度、いや一ヶ月に一度でよい。わくわくする「ありもんさん料理」を家族みんなで演出し、大いに食べ、大いに語り合いたいものだ。

ところで私の子ども時代の給食は、小学校までだった。そこで中学校時代、我が家のお弁当の定番は何といっても「卵焼き」だった。

【上】配膳室前に整列し、人数、マスクやエプロンなどのチェック。N教頭先生による手指消毒後、配膳室に入室します。

「ステーキといえば、クジラだ！」と信じ切っていた。豚カツは、クジラカツ。ベーコンもクジラ。小学校の給食にもクジラ料理がよく出ていた。「しゃぶしゃぶ」という鍋料理も、我が家には存在しなかった。お肉がそれほど貴重品だった。

しかし、我が家では、卵と鶏肉だけは事欠かなかった。父が鶏を飼っていたからだ。親戚の集まりがあると鶏が一羽減り、その日のお客さん料理は水炊きとがめ煮（筑前煮・にごみ）だった。鶏が減ってくると、父は農協からひよこを買ってきた。ひよこが風邪をひかないように段ボールの中に電球を入れ温かくした。それぞれのひよこが兄弟誰のものかと判別できるように、マジックで頭の所に小さく色分けした。兄弟で奪い合うようにいつまでも眺めた。ひよこの羽毛が生え替わりマジックの色が判別できなくなる頃、可愛かったひよこが鶏の顔になってくる。すると、兄たちは誰も見向きもしなくなる。鋭いくちばしでつつかれるようになるからだ。（裏へ）



【上】給食配膳員K先生、則松小学校栄養教諭U先生、八枝小学校栄養教諭S先生、日々の準備やご指導有り難うございます【下】2月29日(木)の給食メニューは、高校入試に向けた「必勝合格カツカレー」でした。三年生の給食は残すところあと一日となり、味わって食べていました。



【左】K先生、校務員のI先生、養護教諭M先生の指導のもと、手際よく食器や給食を教室まで運びます。



エサやりも大変だ。最初の頃は、父に言われて兄が当番だった。ある日、兄に「満。楽しいことをゆずってやろうか。」と言われて、その当番が回ってくる。歳下の宿命だ。自分が一番歳下でゆずる相手もないから、結局、犬の散歩と鶏の世話をするようになった。犬の散歩をしながら鶏の好きそうな野草を採ってきて、小さく切って食べさせる。鶏も大喜びだ。良いこともあった。鶏が初めて卵を産むようになった頃、家族の誰よりも早く一回り大きな卵をゲットすることができるからだ。そのような卵には、黄身が二つ入っている。兄に見つからないように、大急ぎで目玉焼きにして食べた。



だから、肉があまり食べられなかった我が家でも、卵だけは豊富にあった。朝のメニューは、どんぶりじゃわんの卵かけご飯とみそ汁。母が忙しい時は、卵かけご飯だけの時もあった。そして、母がつくってくれた昼の弁当には、当然、卵焼きが入っていた。母の卵焼きは、父と兄弟3人分作るとあって、とても大ざっぱだった。だし巻き卵のように綺麗に巻かれていることはなかった。でも、タマネギ入り、ニラ入り、カレー味など日替わりの卵焼きだった。3時間目頃になると、弁当箱から卵焼きの何とも言えない香りが漂ってきて、お腹が鳴った。今でも母が作ってくれた卵焼きの味が忘れられない。そして、私の卵好きが似たのか、娘の大好物メニューが卵料理である。卵さえあれば、他に何もいらならしい。まさに「卵星人」なのである。



【左・上】「残食0」を目指して副食を継ぎ分ける担任の先生と給食係の皆さん

さて、昭和40年代前半ごろの小学校給食には、牛乳の代わりに脱脂粉乳が支給されていた。当時の脱脂粉乳の味、においを知っている我々世代は、美味しかったという意見が少ないようだ。現在の給食は、とにかく美味しい。野菜もふんだんに使われ、本当にありがたく思う。



副食をかけたじゃんけん大会

則松小・八枝小学校の給食調理員の方々、栄養教諭のU先生とS先生、本校給食配膳員K先生、本当に有り難うございました。三年間美味しい給食を食べ続け、心身ともに大きく成長した三年生がいよいよ卒業を迎えます。私も今後、完全に中学校を離れることがあったならば、どうにかしてでも給食だけは食べにきたい。その方策を、現在、真剣に検討中です。



卒業を迎えます。私も今後、完全に中学校を離れることがあったならば、どうにかしてでも給食だけは食べにきたい。その方策を、現在、真剣に検討中です。



笑顔満開の三年生

